

ZENBUTSU

全仏



仏暦2561年1月
[2018年]

No.
636

特集
「宗教と社会貢献」



浮御堂と琵琶湖の夜明け



公益財団法人

全日本仏教会

WFB (世界仏教徒連盟) 日本センター

CONTENTS

特集「宗教と社会貢献」..... 3

インタビュー

社会貢献とその歴史..... 4

蓑輪 顕量 (東京大学大学院教授)

稲場 圭信 (大阪大学大学院教授)

仏教に関する実態把握調査から見えてくるイメージと期待..... 8

レポート

悩み・苦しみの現場から：仏教者の社会貢献活動..... 10

行先があるから生きていける

吉水 岳彦 (ひとさじの会事務局長)

「おそなえ」を「おすそわけ」

松島 靖朗 (おてらおやつクラブ代表)

宗教者だからできる教誨

龍田 恒夫 (全国教誨師連盟事務長)

インタビュー

社会貢献で大切なこと..... 13

木越 康 (大谷大学学長)

トピックス

第19回理事会開催..... 14

第33期会長・副会長の推戴が承認

「救援基金」寄附者一覧

(公財)全日本仏教会 第33期会長・副会長紹介..... 15

第15次災害救援活動に対する助成金について..... 16

年賀交換..... 17

インフォメーション

花まつりデザイン ポスター・絵はがき 受付開始..... 28



特集 宗教と社会貢献

1995（平成7）年1月17日に発生した、阪神・淡路大震災から間もなく23年を迎えます。国内で初めて震度7が観測されたこの地震により、犠牲者は6,432人、負傷者は43,792人（ともに内閣府「阪神・淡路大震災の概要と被害状況」）にのぼりました。そして「犠牲者」「負傷者」という言葉の奥には、悲しみ苦しむ方々が想像を絶するほどいらっしやることを思わずにはられません。

阪神・淡路大震災をきっかけに、多くの市民が災害ボランティアとして参加したことから、1995年は「ボランティア元年」とも呼ばれます。延べ167万人（兵庫県調べ）が全国からかけつけ、食糧や物資の配給、安否確認や避難所の運営、高齢者や障害者のケアなど、変化に対応した様々な支援を実施しました。

一連の活動には伝統仏教界の僧侶も加わり、物資運搬やがれき撤去、炊き出しなどのほかに、火葬場での読経をする僧侶もいました。このような活動は、後に発生する東日本大震災や平成28年熊本地震をはじめとした災害に対する支援活動の契機になったともいわれています。

昨今は、被災地での支援活動だけではなく、日常にある課題に取り組む僧侶も大勢いますが、一方で「社会貢献」自体を特別な行為や事柄として捉えられる風潮も見受けられます。

ボランティア元年の意味を「これまで考えることもなかった被災者支援とは何か、ボランティアとは何かを考えさせられたこと」と表現される方もいらっしやいます。間もなく訪れる節目を通じて、改めて「宗教と社会貢献」について、皆様と考えてみたいと思います。



袁輪 顕量 (みのわけんりょう)

1960年生まれ。東京大学大学院教授。「宗教者災害支援連絡会」発起人・世話人。著書に『中世初期南都戒律復興の研究』『仏教の教理形成』など多数。

ボランティアや社会貢献という言葉ができる前から、社会や人々の課題に対し関わってきた宗教。改めてその歴史を振り返るとともに、宗教や僧侶の社会貢献とはどのようなものなのか。東京大学大学院教授の袁輪顕量氏、大阪大学大学院教授の稲場圭信氏にお話しを伺いました。

仏教の社会貢献とはどのようなものでしょうか

インド仏教のときは、国王などに対してどのような施政の仕方が理想的なのかを説いた僧侶は知られています。『フトナーヴァリー』という著作があるのですが、為政者がどのような物の見方をし、どういふ社会を築いていくのがいいのかという、アドバイスを書いてあります。ですから、仏教者が施政のアドバイスをすることによって、社会に貢献していたことが

あります。

中国では、政治家のサポーターになり、軍師のような役割で、政策に対する助言をしていました。その他、直接的に民衆の役に立つことをする僧侶も『高僧伝』にできます。隋や唐の時代には、僧侶が社会から寄附をもらい、人々に還元するためのシステムを作って備える例もあります。

日本では、聖徳太子の施薬院や悲田院を始めとし、奈良にある元興寺系列の僧侶も積極的に社会貢献をしていました。橋を架けたり、道を直したりしたことが史料に残っています。

現在、元興寺は真言律宗ですが、引き続き、貧しい人や困っている方への貢献を積極的にしております。

信仰や教学のバックボーンはなんだったのでしょうか

慈悲と喜捨だと思っています。自利利他とも表現しますが、利他の部分を実践されていたのだと思います。今も「慈悲の実践」という言葉が使われますが、以前の僧侶にもこの言葉がバックボーンにあると思います。

中世になると、忍性が非常に大きな救済活動をしていました。当時社会的に虐げられていた方たちが生活できるように様々な実践をしており、忍性の活動を「慈悲に過ぎた」という表現がされるほどでした。

『文殊師利般涅槃經』では文殊師利が社会の貧しい人に姿を変えて現れてくるという記述があります。ですので、貧しい方に施しをすることは、文殊師利に施しをすることと同じとされ、救済活動が行われたとも言われています。

江戸時代には、黄檗宗の鐵眼(てつげん)と了翁道覚(りょうおうどうかく)の二人が注目されます。鐵眼は鐵眼版大蔵經を作られた方として有名です。了翁道覚は貧しい方が病になることが多いため、錦袋円という漢方薬を作り、人々に配っていたそうです。この錦袋円は大変に流行り、得た資金は全て救済活動に費やしたとのこと。鐵眼版大蔵經への資金提供もしたそうですが、現在の東京の上野不忍池に、日本最初の一般の方にも開放された図書館を作ります。遠方の人のために宿泊施設も兼ねていたそうです。この錦袋円に似たものが出始めたとき、多く

社会に対して、良質な価値観を提供する

の人が救われるのであれば問題ないと、自分の利益として独占するわけではなく、苦しみに寄り添っていたとも伝記で書かれています。また、福神漬けを最初に作った方とも言われています。

社会貢献について、実際に僧侶が社会に出て活動するという例はよく見られますが、台湾の慈濟会では、実際の現場に出るのは「委員」といつ在家の信者が多いです。僧侶は精神的な価値観を支えるのが仏教者の役割と考えており、現場に入ることはあるものの、数は少ない印象です。

日本の場合は現場に僧侶が数多く入り、積極的に活動していると思います。そのような貢献も大事ですが、体を動かすというのは、出家でも在家でも、もっと言えば仏教者ではなくてもできるわけですから「仏教者らしい支援」というのはいったい何なのかということも考える必要があります。

精神的な支えとはどのようなものでしょうか

悩みや苦しみというのは自分の心が作り出し、縛られているということがあります。そこから離れ

ていくためにはどうすればよいかを、実際に一緒に取り組むことはとても重要です。そこで大事になるのは、止観瞑想です。今はマインドフルネスという言葉が一般化しています。教理の上では空や縁起で説明されていますが、それだけでは普段の悩みからは離れていくことができません。僧侶が話を聞きながら、どのように離れていくかを伝えることがいいのではないのでしょうか。

精神的な支えは、寄り添うや傾聴で表現されることが多いです

傾聴した上でどうしていけばいいのかを、本当は伝えることが大切ではないのでしょうか。傾聴も重要ですが、仏教が伝えてきた悩みや苦しみを乗り越える道を、一緒に実践することもいいと思います。

昔から、人が亡くなったときに、悲しみに沈んでいる方へ「お念仏を唱えましょ」と伝え、実践していたことがあると思いますが、実はしっかりとした効果があります。一つのものに集中していくと、他の考えが起きなくなってきました。これは瞑想の基本で、心を一

つの対象に結び付けると、他のはたらきが起きないように変化していきます。感情は心が起こしていますから、悲しみの気持ちが少しずつ起きないように変わっていきます。「お題目を唱えましょ」「お念仏を唱えましょ」というのは、修行の観点からいえば理にかなっていることです。そのことを僧侶はしっかりと伝えてあげることが重要ではないのでしょうか。

傾聴がはじめにあって、徐々に関係性ができたとき、どのように苦悩から逃れていくのかという、仏教が伝えてきた伝統的な方法を、一緒になって実践していくことではないかと考えています。

支援活動では、実践を伝えることを躊躇することがあります

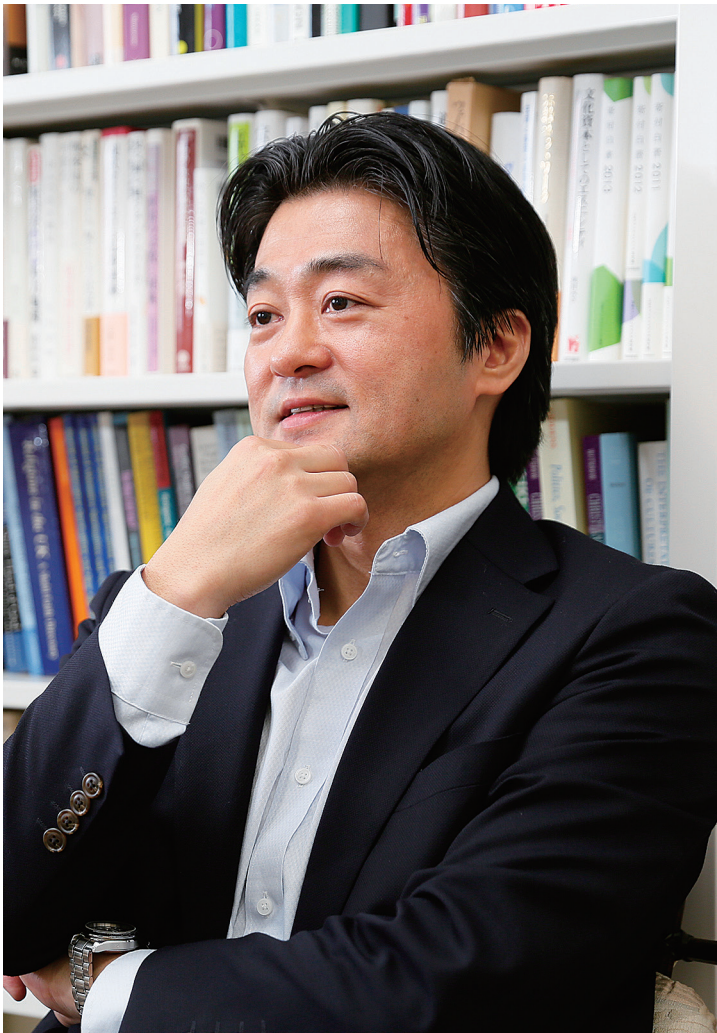
確かに多いと思います。様々な理由でそのような状況になっていると認識していますが、傾聴という入り口をきっかけに、人々が苦悩から逃れられるようになることを伝えるのは重要です。

実践と教理は結び付いているものですが、実践がもたくなって教理ができた面もあります。人間の

心をよく見つめていた実践の面に再注目してほしいですし、大変な社会貢献になると思います。一緒に行動することがなければ、なかなか伝わらないのではないのでしょうか。

僧侶の社会貢献とはなんですか

人々が悩みや苦しみから逃れられるようになることではないのでしょうか。同時に他者のことを考えられるように変わっていくことも、仏教の社会貢献だと考えます。中村元先生は「社会に対して良質な価値観を提供する」という表現をしていました。それは私たちが日常を生きる上で、しっかりとしたものの考え方を提供でき、それが良質なものであることが、仏教の目指している一番大事なところだとおっしゃっていたと思います。また、良質な価値観を提供できるのは「人類が長く付き合ってきた、伝統的な宗教でなければできない」という言い方もされています。僧侶は高度専門職ですし、役割は大きいと感じます。



稲場 圭信 (いなば けいしん)

1969年生まれ。大阪大学大学院教授。宗教社会学者。著書に『利他主義と宗教』『Altruism in New Religious Movements』など多数。

宗教の社会貢献とはどのような意味ですか

ボランティア事業、NGO、災害支援だけが社会貢献ではなく、日常的に行う宗教活動が社会貢献に通じていると考えています。例えば、学校や幼稚園を運営している寺院は地域における社会貢献とも言え、寺院での文化振興のイベント等もそれに付随します。また、法話はもちろんのこと、宗教者が日常に行う会話の中でも、安心感が得られたのであれば、それも社会貢献です。大事なことは宗教者が社会の中で苦しみ、悲しみを抱えている方たちに対して、宗教的な意味がなくとも関わりをもつことです。それが結果となり、人々の苦に寄り添うことができれば、どのような形であれ、宗教の社会貢献であると考えます。

二〇〇八年に統計数理研究所が実施した「日本人の国民性調査」の中に、宗教的な心を大切に考える人は七割というデータがあります。実際、思いやりや支えあいがある大事だと頭では考える人は多く、仏様、ご先祖様を大事にし、困っている人を助けるなど、一つの教義を超えた話をすると心が豊かになる場合もあります。

寺院は昔から地域との関わりを強く持っていました。ですが、今はシングルの時代とも言われ、一九八〇年は二割弱の単独世帯でしたが、現在は三割と増加し、近い将来四割になると危惧されています。では、地縁、社縁、血縁という「つながり」が希薄化する時代にどのような事ができるのでしょうか。やはり寺院を開放し、あらゆる領域で関わることが大事であるとされています。寺院を子育て支援の場として提供することや、地域の集まりに使用するなど、直接的な宗教の営みはないかもしれませんが、

んが、それも社会貢献です。寺院の持つ、場の力を活用することも大切なことです。そうすれば、寺院も地域も活性化します。また、今では宗派や教団において、様々な改革や取り組み等が見直されていますが、そのような行動の中にも、人々の生老病死に寄り添っていく意識がないと、継続していかないと考えられます。

一つモデルを上げますと「おたらおやつクラブ」という団体での活動は、貧困でおやつを食べることができない子供たちがいる中「なんとかかしてあげたい」という想いのもと、行動するのは「同悲、同苦」ですよ。寺院におやつが余っているから送るといっただけではなく、おやつが食べられない「悲しみ」に寄り添いたいという宗教的な想いが表れています。これが社会貢献になっていくのだと思います。そういうことに気が付いている宗教者は昔から大勢います。教誨師や臨床宗教師も活動して

る中「なんとかかしてあげたい」という想いのもと、行動するのは「同悲、同苦」ですよ。寺院におやつが余っているから送るといっただけではなく、おやつが食べられない「悲しみ」に寄り添いたいという宗教的な想いが表れています。これが社会貢献になっていくのだと思います。そういうことに気が付いている宗教者は昔から大勢います。教誨師や臨床宗教師も活動して

現場に出て、あらゆる悩みに応じることが大切

いる場は違いますが、根本はご自身の宗教的な想いから動いています。逆にそのような宗教的な想いがなく、ひとつのビジネスマニュアルだけで動くこととしては継続せず、事業として、いつかはメッキが剥かれる時がくるでしょう。

宗教者にとっての社会貢献は

どのような意味ですか

宗教者のなかにも日常的な「苦」に関わってこなかった方もいると思います。葬式仏教と揶揄されることがありますが、それだけになってしまうと、生きていく中で悩み苦しむ声をあまり聞き取ることがないかもしれません。世の中を見渡せば、経済苦で生きていけない方や、病気で苦しむ方、または親の介護で大変な状況にある方などの色々な悩みがあり、そういう事に対して共感的に受け止めることが難しい宗教者もいると思います。厳しい修行は経ているか

もしれませんが、あくまで仏教的な儀礼の中で行っているものであって、悩み苦しむ方たちから相談を受けても、どう対応していいか分からない場合が多いのではないのでしょうか。実際にそういう事を私は直接宗教者の方たちから聞いたりもしました。

東日本大震災の際には、当たり前のようにあった人や物、家族が突然奪われました。今まで自分はそのような現場に関わったことがなく、被災地という「苦」の現場で学ばせていただくことができたという方は多くいらっしゃると思います。宗教者にとっても社会貢献というのは宗教者自身が大きく変わっていくことです。これは被災地支援に限らず、どの現場でもよいのですが、宗教施設の中での取り組みや、葬儀とは違う「苦」の現場で活動をする、「こういふ現実があるのか」と肌で感じると思いますが、そこに僧侶がいたら、話を聞いてくださいということもあるかと思えます。そのような経

験で宗教者の意識が変わっていったというのも、ここ数年間多く見えてきました。

宗教者にとって、どのように社会と関わるかを問い直す機会になっているのではないのかと思います。被災地や「苦」の現場で感じたことを、寺院に戻り、活かされている方もいます。

宗教者だからできる社会貢献とはなんですか

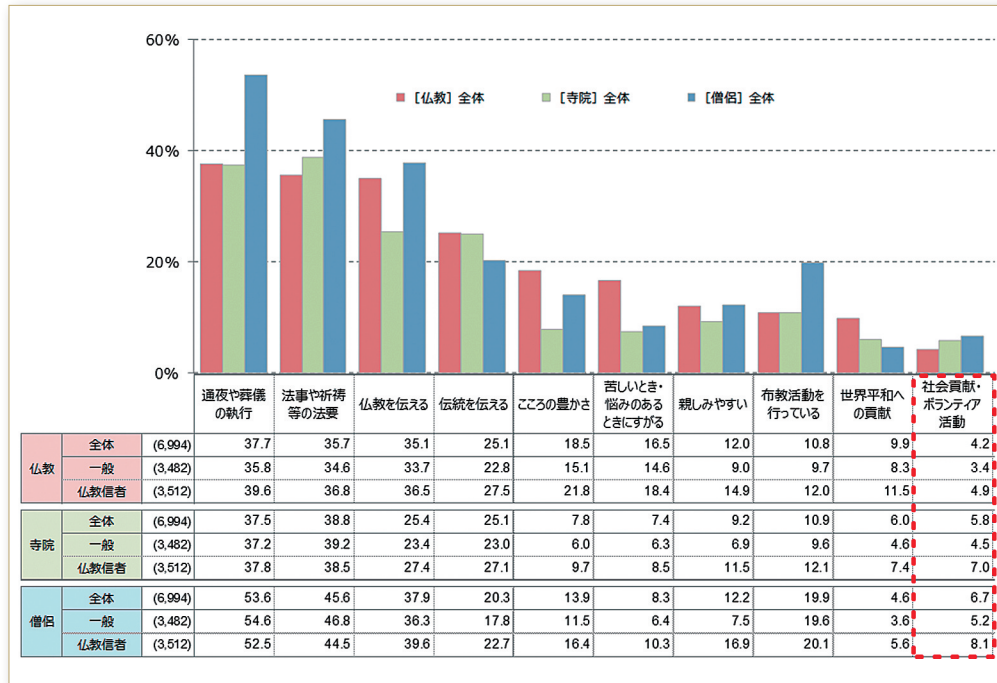
何か特別な事をしなくても、持っている雰囲気や人に安らぎを与えることができるのは、宗教者ならではのと思います。大災害時の追悼や慰霊、その他儀礼等も宗教者にしかできない事です。本来、宗教者は応病与薬として色々なことに対機説法で応じてきた歴史があります。マニュアルがあって行動しているのではなく、一人一人の状況を受け止めて、そこに対応していく教えですね。

社会貢献はもともと宗教者が

行ってきましたが、時代の変化の中で宗教者が関わる領域が限定されていきました。しかしながら、元々の在り方を考えると、宗教者ならではの社会貢献というよりも、宗教的理念をもとに相手に応じて寄り添っていくことが大切だと思います。同じ活動をしても、ベースにあるのはご自身の信仰で、それが宗教者ならではのと思います。

あとは、宗教施設という場のもつ大きな力もあると思います。宗教的な空間は何か別世界から守られていると言いますが、安心できる他にはないものだと思います。日常的にそのような空間に触れられる機会を持つことが大事です。寺院を檀信徒だけに限らず地域に開いて、様々な方が集まる環境を作ることが大切です。

仏教に関する実態把握調査から見えてくるイメージと期待



表一 単語イメージ

過去の歴史を振り返ると、信仰を背景に僧侶の社会貢献は様々な形で実施され、ボランティアや災害支援だけではなく、日常的な宗教活動も社会貢献に繋がっています。では、一般の方は仏教、寺院、僧侶に対してどのようなイメージがあるのでしょうか。

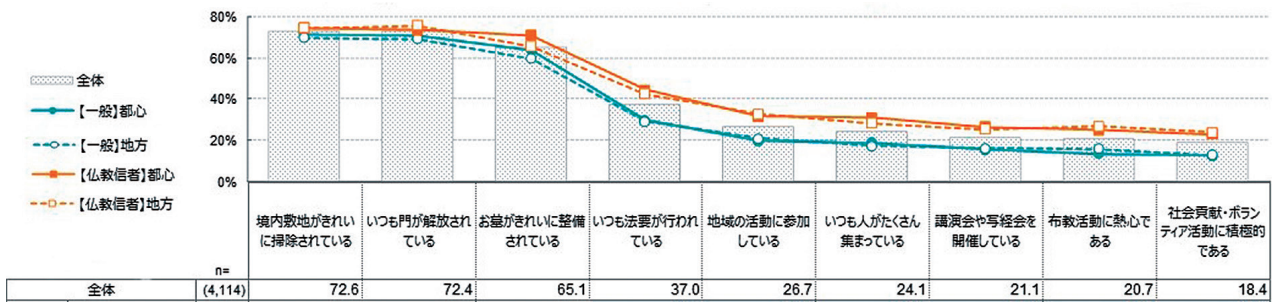
社会のイメージ

本会と大和証券株式会社の共同で昨年実施した「仏教に関する実態把握調査」の中で「仏教」「寺院」「僧侶」という言葉のイメージをそれぞれ聞いており、その結果が表一です。それによると「通夜や葬儀の執行」について「仏教」のイメージは約三十八%で「僧侶」のイメージは約五十四%と最も高く、次いで「法事や祈祷等の法要」「仏教を伝える」と項目が続きます。「寺院」にしてもほぼ同様で「法事や祈祷等の法要」が約三十九%と最も高く「通夜や葬儀の執行」「仏教を伝える」と続きます。大まかなイメージとして「仏教」「寺院」「僧侶」は「通夜・葬儀・法務等の執行と仏教を伝えている」ということとなります。

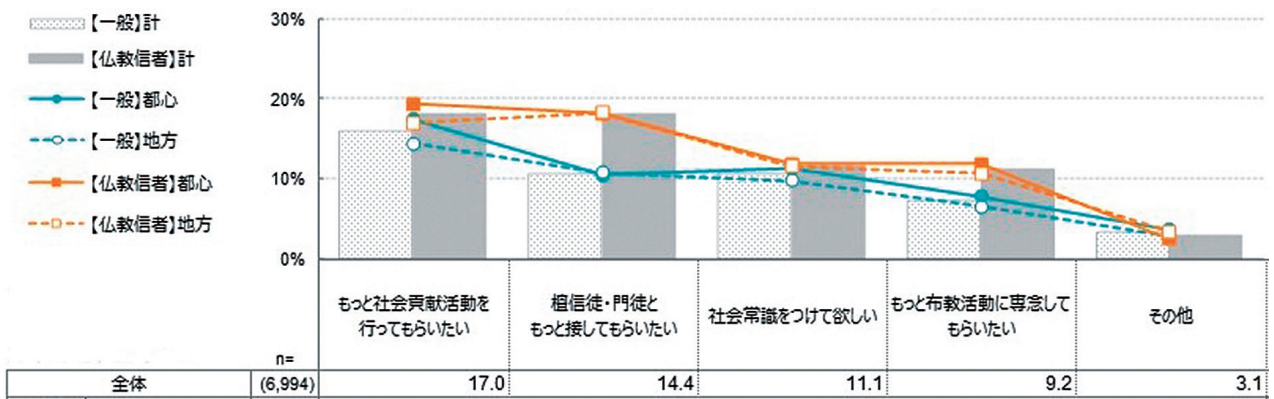
では、社会貢献に対してどのようなイメージがあるかという「仏教」では約四%、「寺院」では約六%、「僧侶」では約七%と、他の項目より低い傾向にあります。この調査における社会貢献やボランティア活動の定義はしておらず、あくまで回答者のイメージになりますが、様々な社会貢献をしているかもしれないが、一

般の方には伝わっていない現状が見えてきます。

比較的接する機会のある菩提寺は、どのような印象なのかを聞いた結果は表二で示しています（ここでいう菩提寺は葬儀や法事を執行するなど、お付き合いのある寺院を指し、寺院に墓地があるかは考慮していません）。それによると、最も印象が高い項目は「境内敷地がきれいに掃除されている」で約七十二%でした。次いで「いつも門が開放されている」「お墓がきれいに整備されている」と続きます。この設問でも社会貢献やボランティアについて聞いたところ「社会貢献・ボランティア活動に積極的である」と応えた方は約十八%と、他の項目に比べ低い印象になっています。同時に「菩提寺住職」についても印象を聞いたところ「落ち着いた雰囲気がある」が約五十二%と最も高く「人柄が良い」「地域の人に顔を知られている」と続きます。菩提寺と同様に、社会貢献についても聞いたところ「社会貢献・ボランティア活動に積極的である」と応えた方は約十九%と、普段接している菩提寺の僧侶についても、社会貢献をしているという印象は低い傾向にある



表二 菩提寺の印象



表三 仏教住職への期待

ことがわかりました。

社会が期待すること

「仏教」「寺院」「僧侶」のイメージと「菩提寺」「菩提寺住職」の印象から考えると、多くの方が思い描いている像が見えてきます

が、社会貢献に関しては全体的に低い傾向がわかりました。そのような寺院や僧侶に対し、一般の方はどうのようなことを期待しているのかを、別の設問で聞いています。

「仏教寺院の住職に期待すること」という質問に対し、お答えいただいた結果が表三です。それによると「もっと社会貢献活動を行ってほしい」と答えた方が十七%と最も高く「檀信徒・門徒ともっと接してほしい」と答えてほしい「社会常識をつけてほしい」「もっと布教活動に専念してほしい」と続きました。各項目を年齢別で再集計してみると、六十代以上は「檀

信徒・門徒と接してほしい」と答える方が他の年代よりも多い中、三十代以下は「もっと社会貢献活動を行ってほしい」と答える方が多くなる傾向がありました。

ギャップから見えてくること

前述した各質問から見えてくることは「社会貢献やボランティアのイメージは低い、もっと社会貢献活動を行ってほしい」というギャップでした。もちろん、各項目で使われている言葉に多少の違いがあることや、仏教や僧侶に触れる回数、年代によっても様々な捉え方がされると想定されます。また、社会貢献という言葉も様々な解釈ができることを考慮すれば、絶対的な数値を見るのではなく、全体の傾向として捉え、伝統仏教界が社会から見られている姿を垣間見ることができるともいえます。

歴史的に僧侶が社会貢献をしてきたことや被災地支援のみならず、日常的な課題へ取り組んでいる現状を踏まえると、時代が変化する中で臨機応変に対応してきた、寺院や僧侶に更なる行動が期待されている可能性があります。

「行先があるから生きていける」

レポート

悩み・苦しみの現場から..

仏教者の社会貢献活動

一般の方から期待されている社会貢献ですが、僧侶や寺院の周りにはどのような社会があり、どのような活動があるのでしょうか。吉水岳彦さん（ひとさじの会）、松島靖朗氏（おてらおやつクラブ）、龍田恒夫氏（全国教誨師連盟）にお話しを伺いました。

山谷での活動と「葬送支縁」

かつて東京のドヤ街と呼ばれた山谷（さんや）地区。多くの日雇い労働者が仕事を求めて集まり、現在もJR南千住駅近くの泪橋近辺には簡易宿泊所が集まる一帯があります。近年は海外向けガイドブックにも掲載され、バックパッカーの利用も増えています。



よしみず がくげん
吉水 岳彦

ひとさじの会事務局長

時代の変化にとまかない、山谷は高齢の元日雇い労働者だけではなく、身寄りのない単身の高齢者など、福祉を必要とする人々が多く住む地域になっています。吉水さんはそんな山谷で生まれ育ち、二〇〇九年から路上生活者や生活困窮者を支縁する「ひとさじの会」事務局長として、炊き出し活動を続けています。

同会は、生活困窮者の葬送や路上生活者等の身寄りのない方々のためのお墓「結の墓」の建立が発足の契機となったといえます。

吉水さんは、他の支援団体との協働事業である「葬送支縁活動」のなかで、「いのちの行先が定めれば、残りの人生を一生懸命に生きていけることを教えられた」と話します。「身寄りのない方々のなかには、自分の人生の最期を考えたときに、手を合わせてくれる人など誰もいないと感じる方もいらつしゃいます。また、自分が生きていても死んでいても、誰も悲しまないし、誰も喜ばないと、強い孤独を感じて、自暴自棄になる人もいます」。しかし、「極楽や『結の墓』のように、どんな形で最期を迎えようとも、周囲の親しい人達とずっと一緒にいられる場所があると思えたら、その日まで精一杯生きようと願うようになることを、元路上生活者に教えていただきました。血縁でなくとも、死後も誰かとつながり続けることが、経済的・人間関係的困窮を経験した方々に大きな安心感をもたらすのです」。

大切な居場所

「ひとさじの会」では、月二回の配

食活動や葬送支縁活動のほか、全国の寺院やフードバンクと協働して、お供えのお米を生活困窮者や災害被災者等のために活用することを勧める「施米支縁活動」も実施しています。

さらに、昨年十月には自坊の境内に「ごども極楽堂」を開設しました。「路上の方と関わるなか、虐待や貧困のために劣悪な環境で生きなければならなかった人や、人をだますことでしか生きてこれなかった人、ネグレクトのために歯磨きや洗顔もちゃんときかない人などの、苦しい子供時代の話を聴かせていただいたことがありました。彼らの言葉を耳にして、路上生活者支援にはおにぎりの配布等の直接支援だけではなく、学校や家庭にも居場所のない子供たちに居てもよい場所を作り支える、予防的な活動も必要だと痛感した」そうです。

苦から学ぶ

ごども極楽堂では、子育て支援NPOの協力を得て、無償学習支援と子供食堂が開催されているほか、ただそこにいるだけでもいい「くらくらの日」も設定しています。吉水さんは「子供のうちから『助けてほしい』と言う感覚や弱音を吐いてもいいことを知ってほしい。関係性の中でぬくもりを知ってほしい」と語ります。「目の前の人の苦しさをやっつらさを感じながらも、何もできないことが多くあります。自己の無力を強く意識させられることは決して楽しいものではありませんが、未熟なわたしは今後も苦に向き合い、仏様に問われ続けながら活動して参ります」。

「おそなえ」を「おすそわけ」



まつしま せいろう
松島 靖朗

おてらおやつクラブ代表

子供の貧困

現代の日本における深刻な社会問題の一つに「子どもの貧困」があります。テレビや新聞などメディアでも盛んに貧困問題が提起され、殺人や死体遺棄事件の中には、背景に貧困について語られることが多くあります。

貧困状態を示す指標として、相対的貧困率があります。全世帯の可処分所得を一人当たり換算して低い順に並べ、中央の額の半分に満たない人の割合を相対的貧困率と呼びます。一見すると不自由なく暮らしていても、家計に余裕がなく、他人が当たり前に行っていることが、自分にはできないという思いを抱くことも少なくありません。

平成二十八年の厚生労働省国民生活基礎調査によれば、子どもの相対的貧困率は約十四%であり、子どもの七人に一人が貧困で苦しんでいることとなります。ひとり親世帯の相対的貧困

率は約五十一%にのぼり、実に二人に一人が貧困状態であるという統計もあります。松島さんは「貧困を構成する要素は二つで、経済的に困窮してしまふことと、社会から孤立してしまうということと、お金に余裕がなく、相談する相手がいない、支えあう関係が築けていない状況が合わさることによって貧困になります」と話します。

事件に触れる中で

しかし、身の周りにそのような子どもを見かけないという「貧困の見えにくさ」が、問題解決を難しくしています。その理由を松島さんは「自身の境遇を打ち明けたくない思いがある」と話します。「例えば母子家庭のお母さんが、自分たちが母子家庭であることが知られたくないという気持ちがあります。ひとり親になる原因の多くが離婚、未婚で、現在の困窮状態を自己責任で片付けようとする社会の一面もあります」。

松島さんは東京で十四年間生活したのちに、二〇一〇年に安養寺に入りました。東京で生活していた頃を振り返ると「自分のことで精一杯でした」と話します。住職として、父親として寺院で生活するようになり、大阪で起きた餓死事件を目の当たりにします。事件に触れる中で、日本でこのような事件があること自体、信じ難い思いながら、同時に「お寺にこんなお供えがあるの」とも感じたそうです。

三帰依文と信仰

「おてらおやつクラブ」は二〇一四年に発足し、現在七百七十四ヶ寺の参加と二百九十五団体が協力しています。二〇一七年にはNPO法人化しました。松島さんをはじめ、様々な宗派と信仰をもっている僧侶や檀信徒、地域の人々が力を合わせ、寺院という場所ですれぞれができることを考え実践しています。「おそなえもの」を仏様の「おさがり」として、必要な人々のもとへと「おすそわけ」する活動を続けています。

「活動を初めて四年が過ぎ、おてらおやつクラブという名前に深い意味があることを感じています。へおてらへは仏様、ご本尊さまをお祀りする場所。へおやつへは法味。へクラブへは僧伽。仏法僧の三宝に帰依する活動なんです」。自身の活動を支えているのは「信仰」と話します。「私は檀家さんからお供えをもらって育ていただきましたので、恩返しをしなければなりません。また、自分は僧侶としてお供えを受け取るにたる存在であるか、自問自答する日々です。困っている人を助けるつもりが、自分自身が多くの仏縁に助けられているのです」と話します。活動のベースにある信仰を見つめ、寺院を取り巻く社会にある見えにくい課題に、仏法僧を敬う僧侶の姿勢を大切にしながら活動をされています。

「宗教者だからできる教誨」^{きょうかい}



たつた つねお
龍田 恒夫

全国教誨師連盟事務長

教誨師の歴史

矯正施設からの要請を受け、ボランティアとして行っている民間の宗教者である教誨師。全国の刑務所、拘留所、少年院等において、死刑確定者や受刑者の被収容者に対し、各教宗派の教義に基づき、様々な活動を実施しています。

一八七二（明治五）年に真宗大谷派僧侶が巢鴨監獄や名古屋監獄で説教を行ったことが近代における教誨のはじまりとされていますが「教誨の歴史は古い」と龍田さんはおっしゃいます。

「全国教誨師連盟発行資料の教誨年表によると、教誨の歴史は古く、四八三（清寧四）年に、清寧天皇が自ら囚徒（囚人）と話し合う

ことが日本書記に書かれており、これが教誨の始まりとも言われています。また、平安時代には永観や春朝が、鎌倉時代には忍性や嚴真が牢獄で説教したと伝えられています」。

一八八一（明治十四）年に「司獄官吏及庸人設置程度及庸人分課例」が制定され「教誨師」の名称が誕生しました。同年には「監獄則」が公布され、教誨制度が法的に確立しました。戦後、公務員であった教誨師が民間の教誨師に変わり、神道、仏教、キリスト教等に対し、教誨師の派遣要請が行われました。「現在では百九教宗団、二十代から九十代の方々の千八百五十一人が教誨師として登録されています。そのうち約六十五%が伝統仏教系の僧侶です。女性も五十六人おり、幅広い教誨への要望に応えています（平成二十九年十一月二十一日現在）」。

宗教者が教誨する意味

刑事施設法第六十八条一項では「刑事施設の長は、被収容者が宗教家（民間の篤志に限る）の行う宗教上の儀式行事に参加し、又は宗教家の行う宗教上の教誨を受けることが出来る機会を設けるように努めなければならない」と規定し、教誨師はすべ

て宗教家であることを位置付けています。以前は「教誨師は宗教家という記載はなかった」そうです。ではなぜ宗教家でなければならぬのでしょうか。同連盟発行の教誨事例集の冒頭で、真宗大谷派の中村昌之さんは「私たちは宗教教誨師であり、道徳・倫理を被収容者に届けるメッセージです。」「どちらが良くて、どちらが悪いのか、私たち人間の考えでは本来区別がつけられないのではないのでしょうか。このような思考にいたる力は宗教からしか出てこないのではないかと考えます」とも言われ、被収容者と向き合う際に宗教者だからこそその役割を伝えています。

社会貢献への期待

龍田さんは様々な事件に触れる中で「宗教者は若い人に宗教的感覚を伝えてほしい」と話します。「宗教者がお寺に閉じこもるのではなく、外と接し、教えを伝える機会を増やしてほしいと思います。宗教と子供や若者が離れないように、積極的に縁を結んでいただければ」と、社会貢献についての期待を寄せていただきました。



木越 康 (きごし やすし)

1963年生まれ。大谷大学学長。
著書に『キリシタンが見た真宗』『仏教とキリスト教の対話』
など多数。

被災地支援だけでなく、生
老病死の現場で僧侶は様々な活動
をしています。社会貢献をする
際に大切にすることは、どのよう
なものなのでしょうか。学生とと
もに継続して被災地に赴く大谷大
学学長の木越康氏にお話しを伺い
ました。

「有縁」で動く人間

二〇一六年に『ボランティアは親鸞
の教えに反するのか』を執筆しまし
た。被災地への支援活動をするのが
「親鸞の教えに反する」「非仏教的な活
動ではないか」という声があったから

です。振り返ってみると、阪神・淡路
大震災後になって僧侶の支援活動が
語られる機会が増えた中で「祈り」が
僧侶の役割ではないかという考えの
方もいらっしゃいました。また、東日
本大震災以降では「被災地支援をする
ことが僧侶の役割」と考える方もい
らっしゃいます。

様々な意見がある中で、著書では
「被災地に行くことは非仏教的態度だ
とすることの誤り」と「行かなければ
ならない」という意見には根拠がない
ということを考えました。私が被災地
支援をするきっかけは、ただ被災地の
映像を見て心が動いたからです。それ
は「縁」であり、親鸞は「有縁」とい

動かされたことから学ぶ

う言い方をします。仏は縁がなくても
はたらく「無縁」ですが、人間は残念
ながら縁をいただいたところではか
心が動きません。

被災地に行く、身の周りにも様々
な問題があることに気が付きます。東
日本大震災はあまりにも大きなこと
でしたので、メディアを通して心が動
かされましたが、実は気が付かないけ
れども、自分が生きている足元には大
勢の苦しんでいる声があり、その声
を出している方々が改めて視野に入っ
てくることがあります。被災地支援を
通して、それぞれが生きている現場の
課題が見えてくることもあるのだと
思います。

医師の中村先生と一緒に、アフガニ
スタンに井戸を掘ることを現地の方
と協働していた、蓮岡さんという方が
真宗大谷派の僧侶にいらっしやいま
す。蓮岡さんが大谷大学で講演した
際、会場から「アフガニスタンに行か
なくとも、日本にも解決しなければな
らない問題がある」という質問があ
りました。それに対し蓮岡さんは「遠く
の人に優しくできない人は、近くの人
に優しくできるはずがありません」と
おっしゃいました。それを考えれば、
心を動かされた人が有縁をもって携
わり、そこからの学びにより、身近な
問題にも積極的に関わるといふこと

があるのではないのでしょうか。

言葉の危うさ

仏教は釈尊の教えですが、その教え
に触れた人がどう動くべきかについ
ては、特に親鸞は指示をしません。仏
陀も悟りを開いていくためにこの戒
律を守るべきだとはいいますが、悟っ
た人間はこうすべきだとはおっ
しゃっていないと思います。聞くべき
教えを聞いた自分がどう動いていく
かは「自在」ではないのでしょうか。

仏教の智慧を大事に守りながら、社
会に実現していくことは大事だと思
います。しかし、何が社会貢献かとい
うのは時代によって変わります。実際
に戦時下における社会貢献を考えて
みると、恐ろしい実体となります。社
会貢献という言葉は危ない面もある
と知っておかなければなりません。社
会に対して「それは違う」と言ってい
くのが、仏教の智慧から出る社会貢献
でもあります。仏教的な智慧がないと
ころで語られる社会貢献は危険だと
思います。

オウム真理教事件以降、宗教学者が
宗教の公益性を議論し「宗教は社会に
とって何か」を考える中で東日本大震
災が発生し、現在は「実践」が課題に
されています。「僧侶の社会貢献」を
立ち止まって考えてみることは大切
だと思います。



第十九回理事会報告

第三十三期会長・副会長の推戴が承認

十一月十五日に開催した第十九回理事会において、第三十三期会長・副会長の推戴に関する議案が上程され、全会一致で原案通り承認された。また、来年度事業計画大綱(案)、来年度予算大綱(案)、大蔵経テキストデータベース運営支援第三期事業についてが協議事項として上程され、全会一致で賛同された。その他、事務総局より報告事項として、財団創立六十周年記念式典・第四十四回全日本仏教徒会議福島大会に関する報告、法務執行に関する協議会に関する報告、各部署報告をした。

【第十九回理事会概要】

日時：平成二十九年十一月十五日

午後四時～

会場：浄土真宗本願寺派宗務所一階研修室

出席理事：十三名(二十名中)

出席監事：二名(三名中)

議長：石上智康

議案(全議案承認)

第一号：第三十三期会長・副会長の推戴

について承認を求める件

協議事項

第一号：二〇一八(平成三十)年度事業

計画大綱(案) について賛同を

求める件

第二号：二〇一八(平成三十)年度予算大

綱(案) について賛同を求める件

第三号：大蔵経テキストデータベース運

営支援第三期事業について賛同

を求める件

報告事項

第一号

財団創立六十周年記念式典・第四十四回全日本仏教徒会議福島大会に関する報告

第二号

法務執行に関する協議会に関する報告

第三号

各部署報告

【総務部】

第三十二期総務財政審議会、法務執行に関する協議会、加盟団体説明会に関する報告

【財務部】

財団創立六十周年記念事業勸募、大蔵経テキストデータベース事業支援、平成二十九年救済基金、平成二十九年度頒布品、税金何でも相談に関する報告

【社会・人権部】

「寺院と災害支援を考える」セミナー、第三十二期社会人権審議会、第三十二期人権問題連絡協議会、財団創立六十周年記念式典部会、「第三期教育振興基本計画の策定に向けたこれまでの審議経過について」のハブリックコメントに関する報告

【広報文化部】

機関誌の発行、仏教に関する実態把握調査、花まつりポスター及び絵はがきデザイン公募結果、広報委員会及び記者懇談会、記念誌編纂部会に関する報告

【国際部】

タイ国フミポン国王追悼儀式 WFB 国際平和会議二〇一七、第九十回 WFB 世界仏教徒会議執行役員会議、第二十九回 WFB 世界仏教徒会議、第二十回 WFB Y 世界仏教徒青年会議日本大会部会に関する報告

「救援基金」寄附者一覧

【2017(平成29)年7月31日～2017(平成29)年12月1日】(時系列順・敬称略)

太福寺 佐久間大道(兵庫県)
一般財団法人埼玉県佛教会
玉林寺 長谷琢堂(東京都)
吉祥院 曾我龍慶(兵庫県)
顕本法華宗
赤松広隆事務所
融通念佛宗
小川昌美(東京都)
全日本宗教用具協同組合
寂光院 松平實胤(愛知県)
有新宿アカウンティングオフィス
一般社団法人日本石材産業協会
茨城県仏教会
松山公顯(愛知県)

大阪府佛教会
FT エナジー株式会社
大本山 大覚寺(京都府)
養安寺 大辻隆善(山梨県)
公益財団法人仏教伝道協会
真言宗御室派
龍仙寺 武田昭英(広島県)
高木義明事務所
萬福寺 垣内善勝(東京都)
時宗宗務所
本門佛立宗 宗務本庁
西山浄土宗
法要寺青年仏教会(埼玉県)
高野山真言宗 社会人権局

神奈川県仏教会
青森県仏教会
曹洞宗 増福寺(静岡県)
真言宗智山派
玄向寺 荻須眞教(長野県)
北条仏教会(愛媛県)
一隅を照らす運動総本部 地球救援事務局
一般社団法人仏教検定協会
森由美子(神奈川県)
宮崎市仏教会
山梨県仏教会
匿名希望4件

総計 ¥2,437,093

ご支援、誠に有難うございました

お知らせ

本年より機関誌「全仏」の発刊は年4回となります。次回は4月に発刊致しますので、ご理解の程、宜しく願い申し上げます。

● 第33期会長 ●



えがわ しんざん
江川 辰三
曹洞宗大本山總持寺貫首

本会は、平成二十九年十一月十五日に開催した会長、副会長候補者推戴委員会にて候補者を決定し、第十九回理事会において本会第三十三期会長・副会長を下記の通り決定いたしました。伝統仏教界の象徴として、国内外問わず、様々な場で日本仏教を発信してまいります。
任期：平成三十年四月一日から二年間

詳細なプロフィールは
本会Webサイトより
参照ください

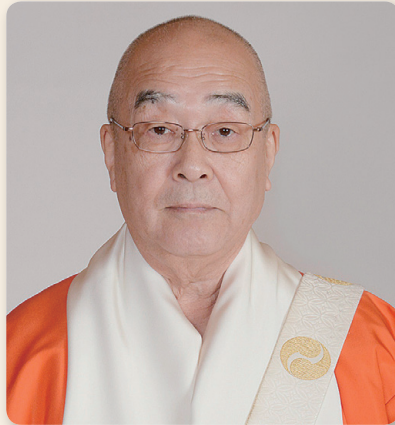


(公財) 全日本仏教会
第三十三期会長・副会長紹介

● 第33期副会長 ●



さがわ ふもん
狭川 普文
華嚴宗管長



もりた しゅんろう
森田 俊朗
和宗管長



たなか しょうとく
田中 昭徳
聖観音宗管長



ふじた りゅうじょう
藤田 隆乗
日韓仏教交流協議会会長



いとう しょうじょう
伊藤 正導
愛知県仏教会会長



わだ たいが
和田 大雅
神奈川県仏教会会長

※役職は平成29年12月20日現在のものです。

第15次災害救援活動に対する助成金について

本会では甚大な自然災害に対し、幅広く迅速な支援を行うことを目的に支援金の拠出を行ってまいりました。この度、第15次支援として下記内容にて、東日本大震災や熊本地震をはじめとする、国内外の激甚災害に対する支援活動を対象とし、本会救援基金による被災地支援を行うはこびとなりましたのでご案内いたします。

※助成金申込をご希望される方は、必ず下記項目をご確認いただき、所定の書式にてお申込み下さい。

■ 支援名称 ■

公益財団法人全日本仏教会 災害救援活動助成金

■ 助成金拠出対象事業 ■

・寺院（住職・教師等）が主体の団体による、国内外の被災地（東日本大震災被災地・熊本地震被災地を含む）を対象にした下記の支援活動を、助成金拠出対象にいたします。

1：被災地におけるボランティア活動

（例：炊き出し、傾聴ボランティア、瓦礫撤去、足湯等）

2：被災地の子どもを対象とした保養事業

（例：被災地の子どもを他府県に招いてのキャンプ開催等）

※同一団体からの申請は1件のみといたします。

対象活動期間内の、同一事業複数開催は一事業とみなしません。

※東日本大震災7回忌・熊本地震1周忌に関して、被災地等での法要厳修のみは恐れ入りますが、助成金の対象となりませんので予めご了承くださいますようお願い申し上げます。

■ 助成金額 ■

熊本地震 事業経費の30%、10万円を上限に拠出

東日本大震災 事業経費の30%、5万円を上限に拠出

その他被災地 事業経費の30%、5万円を上限に拠出

※事業経費とは、支援活動にかかる費用（交通費、宿泊費、材料費、運搬費、講師謝礼等）であり、主催者の日当などは含みません。

■ 申請対象期間 ■

2017（平成29）年10月1日から

2018（平成30）年1月31日までに実施した事業。

■ 申込締切日時 ■

2018（平成30）年2月28日（水）16時必着。

※全ての提出物の締切となります。

■ 申込方法及びその後の流れ（必ずお読みください） ■

下記書類に必要事項をご記入の上、ご提出下さい。

< 郵送・宅配でのご提出書類 >

①助成金申請書兼活動報告書

②事業決算書

③事業経費の領収書コピー

④支援活動を行った方々の感想や本会に対する要望（400字程度・メール提出可）

⑤保養事業は参加者へ配布した日程表・チラシ等の資料（コピー可）

※助成金申請書兼報告書、事業決算書は本会Webサイトよりダウンロードいただけます。

< メールでのご提出データ >

⑥支援場所・支援内容がわかるもの・支援対象者が写っている写真3枚。（写真は、本会Webサイト・機関誌等で掲載をさせて頂く場合がございます。可能な限り鮮明な写真をお願い致します。）

■ 助成金拠出の可否のお知らせについて ■

・助成金拠出の可否につきましては、本会支援検討会議で助成審査を厳格に行い、後日当該団体の指定口座に送金致しますのでご確認ください。

■ ご提出先 ■

・ 郵送・宅配でのご提出書類宛先

公益財団法人全日本仏教会 財務部

〒105-0011 東京都港区芝公園4-7-4 明照会館2階

・ メールでのご提出データ送付先アドレス

zaimu@jbf.ne.jp

尚、詳細については本会Webサイトをご覧ください。

<http://www.jbf.ne.jp/>



新年お慶び申し上げます

真道

永平禪法

曹洞宗宗務庁

管 長 福山 諦法
 宗務総長 釜田 隆文
 参 議 羽仁 素道
 参 議 佐瀬 道淳
 総務部長 河村 松雄
 財政部長 橋本 壽幸
 教学部長 成田 隆真
 人事部長 松原 道一
 伝道部長 渡部 卓史
 出版部長 藏山 大顕
 教化部長 山本 健善

東京都港区芝二丁目一丁目
 〒105-8514 〇三(三四五)五四二一
 ▼曹洞宗公式サイト「曹洞禅ネット」
<http://www.sotozen-net.or.jp/>

浄土真宗本願寺派



総 長 石上 智康
 総 務 山階 昭雄
 総 務 池田 行信
 総 務 阿部 慶一
 副 総 務 弘中 貴之
 副 総 務 玉井 昭英
 副 総 務 尾井 貴童
 浄土真宗本願寺派 総合研究所長 丘山 願海

京都市下京区堀川通花屋町下る
 浄土真宗本願寺派 伝道本部(宗務所)
 〒600-8501 〇七五(三七二)五一八一
 F A X 〇七五(三五二)一三七一
<http://www.hongwanji.or.jp/>

真宗大谷派



宗務総長 但馬 弘
 参 議 儀式指導 木全 和博
 参 議 研究 所長 八島 昭雄
 参 議 財務 所長 藤井 宣行
 参 議 首都圏教化 推進 部長 土肥 人史
 参 議 推進 部長 草野 龍子
 参 議 青少年センター 長

京都市下京区烏丸通七条上る
 常葉町七五四
 〒600-8505 〇七五(三七二)九一八一代表
<http://www.higashihonganji.or.jp/>
<http://jodo-shinshu.info/>

浄土宗

「浄土宗二十一世紀劈頭宣言」

愚者の自覚を
 家庭にみ仏の光を
 社会に慈しみを
 世界に共生を

浄土宗宗務庁 伊藤唯眞
 宗務総長 豊岡 隼尔
 総務局長 中村 在徹
 教学局長 川中 光教
 財務局長 谷上 昌賢
 社会国際局長 杉山 俊明
 文化局長 新谷 仁海
 総長公室長 浅野 義光
 人権同和室長 幸島 正導
 災害対策室長 宮林 雄彦
 兼社会福祉推進 事務局 長 土方 了哉
 浄土宗宗務庁 職員一同
 準備事務局 長

浄土宗宗務庁
 京都市東山区林下町四〇〇一八
 〒605-0062 〇七五(五二五)二二〇〇(代)
 F A X 〇七五(五二二)五一〇〇五
 東京都港区芝公園四一七一四
 〒105-0011 〇三(三四三)三三五一(代)
 F A X 〇三(三四三)〇七四四
<http://jodo.or.jp>

日蓮宗

日蓮聖人降誕八百年

管 長 内野 日総
 宗務総長 中川 法政
 伝道局長 塩田 義徹
 総務局長 松永 慈弘
 伝道部長 松井 大英
 教務部長 北山 孝治
 総務部長 大場 正昭
 財務部長 木村 吉孝
 宗務総長室長 木内 隆志
 日蓮宗現代 宗教研究所長 三原 正資
 参 与 山口 裕光
 参 与 吉田 顕綱
 日蓮宗新聞社 長 渡邊 義生

日蓮宗宗務院
 東京都大田区池上一一三二一五
 〒146-8444 〇三(三七五)二七一八一
 F A X 〇三(三七五)二七一八六
<http://www.nichiren.or.jp/>

新年お慶び申し上げます



総本山金剛峯寺 高野山真言宗

座長	中西 啓寶
宗務総長	添田 隆昭
内務部長	長谷部 真道
執務部長	橋本 真人
国際部長	佐伯 公応
法会部長	岡部 観栄
財務部長	山口 文章
執務部長	丹羽 義寛
次長	佐々木 基文
社会人局長	仁賀 大善
奥之院維那	東 伸光
伽藍維那	廣瀬 義仙
柏田 良辯	

和歌山県伊都郡高野町高野山一三三
〒648-0211 〇七三六(五六)二〇一一
FAX 〇七三六(五六)四六四〇
<http://www.koyasan.or.jp/>

臨濟宗妙心寺派宗務本所



管長	嶺 興嶽
宗務総長	栗原 正雄
総務部長	上沼 雅龍
花園会館部長(兼)	野口 善敬
教学部長	澤田 慈明
財務部長	古山 敬光
花園会館部長	吹田 良忠
法務部長	

京都市右京区花園妙心寺町六四
〒616-8035 〇七五(四六三)三二二二
<http://www.uruyoshinji.or.jp/>

天台宗



祖師先德讃仰大法会

天台座主	森川 宏映
宗務総長	杜多 道雄
参務部長	寺本 亮洞
参務部長	浅野 玄航
参務部長	甘井 亮淳
参務部長	森田 源真
参務部長	林 光俊
参務部長	森定 慈仁

大津市坂本四丁目六番二号
〒520-0113 〇七七(五七九)〇〇二二
FAX 〇七七(五七九)二五二六
<http://www.tendai.or.jp/>

真言宗智山派宗務所 総本山智積院法務所



管長	小峰 一允
宗務総長	芙蓉 良英
宗務部長	馬場 修任
総務部長	高麗 行真
教学部長	笹沼 弘憲
教化部長	三神 栄法
法務部長	久保田 剛士
財務部長	近藤 昌俊
宗務出張所長	
別院執事	

京都市東山区東大路七条下ル
〒605-0951 〇七五(五四一)五三六一
<http://www.chisan.or.jp/>

真言宗豊山派宗務所

管長	田代 弘興
宗務総長	星野 英紀
総務部長	小島 一雄
財務部長	岩脇 彰信
教務部長	笹岡 弘隆
教化部長	陶山 義憲
教化センター長	渡会 瑞顕
総合研究院院長	加藤 純章

東京都文京区大塚五―四〇―一八
真言宗豊山派宗務所
〒112-0012 〇三三(二九四五)〇六三九
<http://www.buzan.or.jp/>



新年お慶び申し上げます

天台真盛宗 総本山西教寺

貫管
首長
西村 問紹

宗務総長
執事長
喚阿 宏道

教学部長
別所 泰広

社会部長
蜂谷 眞勝

庶務部長
大窪 功真

財務部長
真弓 佳章

滋賀県大津市坂本五十一三十一
〒520-0113 〇七七(五七八)〇〇一三
FAX 〇七七(五七八)三四一八

天台寺門宗

管長
福家 英明

宗務総長
村上 法照

教学部長
福家 俊彦

財務部長
明石 清澄

修験道部長
秋田 幸輝

庶務部長
加藤 明信

録事
三島 宗覚

滋賀県大津市園城寺町二四六
〒520-0036 〇七七(五二二)五一〇
FAX 〇七七(五二二)五二二八

和宗総本山 四天王寺



聖徳太子
千四百年御聖忌
2022年 厳修

管長
森田 俊朗

清光院
健代 和央

地藏院
加藤 公俊

真光院
瀧藤 尊淳

施行院
南谷 恵敬

吉祥院
塚原 昭應

奥之院
宮崎 光映

東光院
出口 隆順

静専院
吉田 明良

宝泉寺
廣瀬 善重

一音院
坂本 峰徳

勝鬘院
山岡 武明

中之院
森田 惇朗

大阪府大阪市天王寺区四天王寺
一丁目十一番十八号
〒543-0051 〇六(六七七)〇〇六六
FAX 〇六(六七七)三二四九二一
<http://www.shitennojji.or.jp>

総本山仁和寺 真言宗御室派

管門
長跡
立部 祐道

執行総長
宗務総長
瀬川 大秀

総務部長
主原 啓隆

教学部長
八木 恵生

執行財務部長
大石 隆淳

京都市右京区御室大内三三三
〒616-8092 〇七五(四六一)一一五五
FAX 〇七五(四六四)四〇七〇
<http://ninnaji.jp>

真言宗醍醐派宗務本庁 総本山醍醐寺寺務所

管座
主長
仲田 順和

宗務総長
執行長
壁瀬 宥雅

総務部長
執行
仲田 順英

教学部長
執行
田中 祐考

財務部長
執行
浦郷 宜右

京都市伏見区醍醐東大路町三二
〒601-1325 〇七五(五七二)〇〇〇二
FAX 〇七五(五七二)〇一〇一
<http://www.daigoji.or.jp>
携帯電話でも御覧頂けます。



新年お慶び申し上げます



融通念佛宗 総本山大念佛寺

法管
主長 倍巖 良舜

宗務総長 寺務総長 田中 瑞修

教学部長 法務部長 濱田 全眞

庶務部長 佐々木智祥

財務部長 会計部長 篠塚 章臣

大阪市平野区平野上町

一七二二六

〒547-0045

〇六(六七九)〇〇二六

FAX 〇六(六七九)三〇五〇

<http://www.dainenbutsuji.com/>

法華宗(本門流)



一天四海皆歸妙法 お題目総下種運動
咲かそう、いのち
一宗祖日蓮大聖人御聖誕800年一

管長 桃井 日英

宗務総長 二瓶 海照

総務部長 三吉 廣明

教学部長 清水 常光

布教部長 吉崎 長生

財務部長 久野 晃秀

企画部長 平田 義生

東京都中央区日本橋人形町

二一九一

〒103-0013

〇三(五六一四)三〇五五

FAX 〇三(五六一四)三〇五六

<http://www.hokkeshu.or.jp>

法華宗(陣門流)

管長 門谷 日悠

宗務総長 西山 英仁

総務部長 牧野 秀成

教学部長 布施 義高

財務部長 金原 孝宜

教化部長 松吉 慶憲

企画部長 今井 満良

東京都豊島区巢鴨五―三五―六

紋屋町三三〇

〒170-0002

〇三(三三九一八)七二九〇

FAX 〇三(三三九一八)七二九〇

<http://www.hokkeshu.jp/>

法華宗(真門流)

管長 上田 日猷

宗務総長 堀 智泰

総務部長 堀内 浩善

教学部長 峰尾 泉栄

教化部長 木田 慧明

社会部長 坂本 法保

財務部長 寺田 良正

京都市上京区智恵光院通五辻上る

紋屋町三三〇

〒602-8447

〇七五(四四一)五七六二

FAX 〇七五(四四一)五六六六

<http://www.hokkeshu.jp/>

顕本法華宗

管長 山本 日恵

宗務総長 島田 幸晴

宗務次長 秋葉 敬真

布教部長 早川 義正

財務部長 湯原 純勇

庶務部長 津村 乗信

社会部長 藤本 智成

教務部長 湯原 正純

顕本法華宗宗務院

京都市左京区岩倉幡枝町九十一

総本山妙満寺内

〒606-0015

〇七五(七九二)七二七一

FAX 〇七五(七九二)七二六七



新年お慶び申し上げます

一般財団法人 埼玉県佛教会

会長 木村 盛雄

副会長 倉持 秀裕

同 加藤 玄静

専務理事 深谷 雅良

常務理事 糸原 恒久

同 山口 正純

同 河野 亮玄

同 馬場 知行

事務局長 金子 嘉広

さいたま市浦和区高砂

四一三一一八

〒330-0063 〇四八(八六二)二一三八

FAX 〇四八(八六四)六六四九

<http://saibutu.net/>

神奈川県仏教会

会長 和田 大雅

副会長 都築 哲信

同 木内 雍明

同 丸山 邦雄

同 宗澤 文良

事務局長 山本 昭弘

横浜市中区大平町九六

西有寺内

〒231-0859 〇四五(六六一)〇一六六

京都府仏教連合会

理事長 栗原 正雄

同 本多 隆朗

同 但馬 弘

同 北川 一有

同 芙蓉 良英

同 壁瀬 宥雅

同 橋本 一妙

同 能登 春夫

同 加藤 良邦

同 三井 雅弘

同 佐々木 亮一

同 赤田 泰宏

同 音羽 隆全

同 芳井 秀教

同 長谷 雄祐

同 西山 惠龍

同 柏田 良辯

同 安田 真源

同 村山 孝純

同 豊田 元彦

同 成田 隆徳

同 櫻井 随峰

同 奥垣 主哲

同 赤塚 高明

同 八幡 覚堯

同 吉川 文雄

同 川島 永嗣

同 吹田 良忠

事務局長

京都市右京区花園妙心寺町一

〒616-8035 〇七五(四六一)五二二六

大阪府佛教会

会長 加藤 定厚
(浄土真宗本願寺派 大行寺)

副会長 村山 廣甫
(曹洞宗 東光院)

同 森 快隆
(真言宗 葛井寺)

同 藪木 恵照
(日蓮宗 妙浄寺)

同 瀧藤 尊淳
(和宗 四天王寺)

監事 丹農 秀知
(浄土宗 専称寺)

同 立石 泰教
(浄土真宗本願寺派 浄泉寺)

事務局長 二上 寛弘
(真言宗 釋迦院)

事務局長

大阪市港区築港一十三一三

釋迦院内

〒552-0021 〇六(六五七)一五七一〇

公益財団法人 仏教伝道協会

会長 木村 清孝

理事長 桂 紹隆

常務理事 青木 晴美

理事 上山 大峻

理事 門脇 邦彦

理事 野村 邦武

理事 沼田 恵明

理事 生田 忠士

監事 中野 東禅

監事 松村 智司

〒108-0014

東京都港区芝四丁目三十一四

電話 〇三(三四五)五八五一

FAX 〇三(三七九)二七五八

<http://www.bdk.or.jp>

新年お慶び申し上げます



金峯山修験本宗 総本山金峯山寺

管長 五條 良知

宗務総長 執行長 五條 永教

奈良県吉野郡吉野町吉野山二四九八
〒639-3115 〇七四六(三三)八三七一
FAX 〇七四六(三三)四五六三
<http://www.kinpusen.or.jp>

聖観音宗 浅草寺

貫首 田中 昭徳

執事 長 守山 雄順

東京都台東区浅草二一三一
〒111-0032 〇三(三八四二)〇一八一
FAX 〇三(三八四五)六九三三

念法真教 総本山小倉山金剛寺

燈主 稲山 靈芳

大阪市鶴見区緑三三四一
〒538-0054 〇六(六九一一)二二〇一
<http://www.nenpoushinkyu.jp>

真言三宝宗 大本山清澄寺

法主 坂本 光謙

宗務長 岡田 康秀

執行長 有井 良隨

鉄斎美術館 森藤 光宣

宝塚市米谷字清シ一番地
〒665-0837 〇七九七(八六)六六四一
FAX 〇七九七(八六)六六六〇
<http://www.kyoshikoin.jp>

信貴山真言宗 総本山朝護孫子寺

管長 田中 眞瑞

前管長 鈴木 貴晶

長老 鈴木 風永

宗務長 野澤 密孝

奈良県生駒郡平群町信貴山
二二八〇一
〒636-0923 〇七四五(七二)二二七七

浄土宗西山禅林寺派 総本山禅林寺

法主 中西 玄禮

宗務総長 執行長 奥垣内圭哲

京都市左京区永観堂町四八
〒606-8445 〇七五(七六二)〇〇〇七
FAX 〇七五(七七二)四二四三

真宗高田派 本山専修寺

宗務総長 安藤 光淵

総務 藤森 邦夫

総務 鈴木 紀生

三重県津市一身田町二八一九番地
〒514-0114 〇五九(三三三)四一七一
FAX 〇五九(三三三)一四一四

臨済宗南禅寺派 大本山南禅寺

管長 中村 文峰

宗務総長 蓮沼 良直

内局 一同

京都市左京区南禅寺福地町86
〒606-8435 〇七五(七七二)〇三六五
FAX 〇七五(七七二)六九八九

黄檗宗 大本山萬福寺

管長 近藤 博道

宗務総長 盛井 幸道

京都府宇治市五ヶ庄三番割三四
〒611-0011 〇七七四(三三)三九〇〇
FAX 〇七七四(三三)六〇八八

本門佛立宗 本山宥清寺

講有 高須 日良

宗務総長 木村 日覚

本山宥清寺
〒602-8336 京都市上京区一条通七本松西入
滝ヶ鼻町一〇〇五番地の一
TEL 〇七五(四六三)四六二〇(代)
FAX 〇七五(四六三)四六五一
本門佛立宗 宗務本庁
〒602-8377 京都市上京区御前通一条上る
東堅町一一〇番地
TEL 〇七五(四六二)一六六代
FAX 〇七五(四六四)五九九九
京都佛立ミュージアム
TEL 〇七五(二八八)三三四四
URL <http://www.hbsmuseum.jp>



新年お慶び申し上げます

真言律宗 総本山西大寺

真言律宗管長
総本山西大寺管長

大矢 實圓

真言律宗宗務長
総本山西大寺
執事 長

松村 隆誉

奈良市西大寺芝町一丁目一の五
〒310-0825
FAX 〇七四二(四五)四七〇〇
FAX 〇七四二(四五)四七二〇

福島県仏教会

会 長 玉木 芳宗

専務理事 清水 清秀

事務局長 豊島 宗樹

福島県福島市山田字寺ノ前九
好国寺内
〒960-1105
FAX 〇二四(五四六)二八八二

茨城県仏教会

会 長 鈴木 堯將

副会長 徳永 光由

副会長 永徳 眞隆

副会長 奥田 俊裕

茨城県日立市西成沢町一丁目一
宝塔寺内
〒316-0032
FAX 〇二九四(三七)二六一七
FAX 〇二九四(三四)六二六三

東京都仏教連合会

会 長 菅野 日彰

理事長 新美 昌道

事務局長 新倉 典生

東京都足立区梅田一丁目一
善立寺内
〒123-0851
FAX 〇三(三八八六)一三六七
FAX 〇三(三八八六)八二五二

静岡県仏教会

会 長 鈴木 眞道

役員 一同

静岡県静岡市葵区大岩本町
一丁目一三 富春院内
〒420-0884
FAX 〇五四(二四五)五三一九

愛知県仏教会

会 長 伊藤 正導

副会長 舎人 経昭

同 近藤 太康
同 岩木 涼山

名古屋市天白区植田一丁目一
全久寺内
〒468-0051
FAX 〇五二(八九三)九二九〇
FAX 〇五二(八九三)九二九〇



公益社団法人 全日本仏教 婦人連盟

会 長 東伏見具子

理事長 末廣 久美

東京都渋谷区千駄ヶ谷
四丁目一 二〇五
〒151-0051
FAX 〇三(五七七二)〇六七七
FAX 〇三(六四三四)〇一八四
<http://bjwf.jp>
[E-mail:bjwf@bjwf.jp](mailto:bjwf@bjwf.jp)

孝道教団

統 理 岡野 正純

横浜市神奈川区鳥越三八
〒221-0064
FAX 〇四五(四三二)一一〇一
FAX 〇四五(四三四)一一八八

真言宗大覚寺派 大本山大覚寺

管 門 長 跡 黒沢 全紹

京都市右京区嵯峨大沢町四
〒616-8411
FAX 〇七五(八七二)〇〇七一
FAX 〇七五(八七二)〇〇五五

総本山 根来寺

新義真言宗宗務所

和歌山県岩出市根来二二八六
総本山 根来寺内
〒649-6202
FAX 〇七三六(六二)一一四四
FAX 〇七三六(六二)一〇四四

真言宗善通寺派 総本山善通寺

法 管 主 長 檜原 禅澄

香川県善通寺市善通寺町三三三
〒765-8506
FAX 〇八七七(六二)〇一一一
FAX 〇八七七(六二)四三〇二

新年お慶び申し上げます



真言宗須磨寺派 大本山須磨寺

貫主 小池 弘三

〒654-0071 〇七八(七三二)〇四一六
神戸市須磨区須磨寺町四一六一八

真言宗中山寺派

大本山 中山寺

宝塚市中山寺二丁目十一一
〒665-8588 〇七九七(八七)〇〇二四
FAX 〇七九七(八七)九八七七
<http://www.nakayamadera.or.jp>

東寺真言宗

宗務総長 橋本 尚信

京都市南区九条町一
東寺真言宗宗務庁
〒601-8473 〇七五(六七二)三七一七
FAX 〇七五(六六一)六八五六

西山浄土宗 総本山光明寺

京都府長岡京市粟生西条の内
一六番地の一

〒617-0811 〇七五(九五五)〇〇〇二
FAX 〇七五(九五三)二二六四

東京別院
東京都町田市小山ヶ丘二一―一
〒194-0215 〇四二(七九四)八五八五
<http://www.komyo-ji.or.jp/>

時宗

法主 加藤 円住

神奈川県藤沢市西富一―八―一
〒251-0001 〇四六六(二三)七二七六

臨濟宗円覚寺派

大本山 円覚寺

鎌倉市山ノ内四〇九
〒247-8503 〇四六七(二二)〇四七八
FAX 〇四六七(二三)三〇二七
<http://www.engakuji.or.jp>

臨濟宗相国寺派

大本山 相国寺

京都市上京区今出川通烏丸東入
相国寺門前町七〇一番地
〒602-0898 〇七五(二三)〇三〇一
FAX 〇七五(二二)三五九一
<http://www.shokoku-ji.jp>

法相宗 大本山興福寺

貫首 多川 俊映

奈良県奈良市登大路町四八
〒630-8213 〇七四二(二二)七七五五
FAX 〇七四二(二三)一九七一

北海道仏教会連盟

会長 中尾 了信

札幌市中央区北三条西十九丁目二―一
浄土真宗本願寺派北海道教区教務所内
〒060-0003 〇一一(六一)九六三三

山梨県仏教会

会長 姉川 慈航

山梨県甲州市塩山下粟生野一四五九
〒404-0032 〇五五三(三三)九六四二
FAX 〇五五三(三三)九六五四

岐阜県仏教会

会長 杉山 令憲

岐阜市西野町三一―一
岐阜西別院庫裡
〒500-8882 〇五八(二六六)七八〇三
FAX 〇五八(二一四)四〇八一
<http://bukkyogifu.net/>

滋賀県仏教会

会長 福家 英明

滋賀県大津市園城寺町二四六
総本山園城寺内
〒520-0036 〇七七(五二二)二二三八
FAX 〇七七(五二二)二二二一

島根県仏教会

会長 清水谷 善圭

島根県安来市清水町五二八
清水寺内
〒692-0033 〇八五四(二二)二一五一
FAX 〇八五四(二二)二一〇七

公益社団法人 日本仏教保育協会

理事長 緑谷 一雄

東京都港区芝公園四―七―四
明照会館二階
〒105-0011 〇三(三四三)七四七五
FAX 〇三(三四三)一五一九

全日本仏教青年会

理事長 倉島 隆行

三重県津市栄町一―八九二
四天王寺内
〒514-0004 〇五九(二二八)六七九七
<http://www.jybuane.jp/>
E-mail:info@jyba.nc.jp



新年お慶び申し上げます

日本仏教鑽仰会

理事長 中山 秀成

東京都板橋区舟渡四一五十一
〒174 0041 〇三(三九六七)三二八八

一般社団法人 仏教情報センター

理事長 長谷川 岱潤

東京都文京区本郷
一四一六一二〇二
〒113 0033 〇三(三八一三)六五七七
FAX 〇三(三八一三)六七九四

日韓仏教交流協議会

会長 藤田 隆乗

神奈川県川崎市川崎区大師町四一四八
川崎大師平間寺教化部内
〒210 8521 〇四四(二六六)三四二〇
FAX 〇四四(二七七)八一六三

妙見宗

真言宗山階派

真言宗泉涌寺派

真言宗国分寺派

真言宗大鳴派

浄土宗西山深草派

真宗佛光寺派

真宗興正派

真宗木辺派

臨済宗建長寺派

臨済宗天龍寺派

臨済宗東福寺派

本門法華宗

聖徳宗

華嚴宗

律宗

青森県仏教会

岩手県仏教会

栃木県仏教会

群馬県仏教連合会

千葉県仏教会

新潟県仏教会

石川県仏教会

福井県仏教会

長野県仏教会

京都仏教会

兵庫県仏教会

和歌山県仏教会

鳥取県仏教連合会

岡山県佛教会

(一社) 徳島県仏教会

香川県仏教会

愛媛県仏教会

高知県仏教会

福岡県仏教連合会

長崎県仏教連合会

宮崎県仏教連合会

沖縄県仏教会

(公財) 国際仏教興隆協会

東京ブディストクラブ

(二社) 在家仏教協会

賛助会員

【特別会員】

大本山東福寺 遠藤 楚石
蓮華院誕生寺 川原 英照
尾道仏教会 麻生 章雄
實相山中央寺 南澤 道人
信州善光寺 若麻績信昭
妙見閣寺 竹内 日祥
一般社団法人仙台仏教会 伊達 廣三
壺阪山南法華寺 常盤 勝範

【団体会員】

京セラ株式会社(電子機器製造)
東映株式会社(映画)
株式会社カナメ(建築)
大建工業株式会社豊材部(建築)
日鐵住金建材株式会社(建築)
松井建設株式会社(建設)
綜合警備保障株式会社 城東支社(警備)
東京海上日動火災保険株式会社
広域法人部法人第一課(保険)
損害保険ジャパン日本興亜株式会社(保険)
大和証券株式会社
営業サポート部(ビジネスサポート)
野村證券株式会社
金融公共公益法人部(金融)
三菱UFJモルガン・スタンレー証券
株式会社(金融)
キヤノンマーケティングジャパン株式会社
(ビジネスソリューション)
朝日ビジネスソリューション株式会社
(コンサルティング)
株式会社大陸旅遊(旅行)
株式会社阪急阪神ビジネスホテル(旅行)
株式会社ビーエス観光(旅行)
株式会社JTBコーポレートセールス
第一事業部(旅行)
近畿日本ツーリスト株式会社(旅行)
東日観光株式会社(旅行)

新年お慶び申し上げます



東武トップツアーズ株式会社(旅行)
株式会社わらび座(旅館・劇団)
日本テンプルヴァン株式会社
(寺院経営コンサルタンツ)
いちよしビジネスサービス株式会社
(総合販売)

有限会社新宿アカウンティングオフィス
(経営コンサルティング)

株式会社さくら経営(経営コンサルティング)
株式会社社縁(寺社仏閣総合リスクコンサルタンツ)
株式会社スペーススマーケット(イベント)
株式会社東海大阪レンタル(イベントレンタル)
株式会社エコマイニング(環境エネルギー)
FTエナジー株式会社(電力エネルギー)
ティケイヘンデルアート(印刷)
株式会社大洋社(制作・印刷)
株式会社オメガ・コミュニケーションズ
(翻訳・出版物企画・制作)

株式会社デイ・エイ・ティ・コーポレーション
(出版物企画・制作)

新日本法規出版株式会社(法規図書出版)
株式会社便利堂(美術印刷・企画)
有限会社ルンビニ(保険代理店)
株式会社サンモトヤ

(ファンクション、インテリア輸入・販売)
株式会社廣部硬器(セラミックス造形)
株式会社京念珠刑部(念珠製造・販売)
株式会社京扇堂(扇子製造・販売)
株式会社小堀(仏壇仏具製造・販売)
株式会社若林工芸舎(文化財保存修理)
株式会社公益社(葬祭)
株式会社みんなのお葬式(葬祭)
株式会社タイセイ(総合商社)
株式会社いせや(石材業)
日本仏教看護・ビハロー学会
一般財団法人ライフプランニングセンター
一般財団法人
100万人のクラシックライプ
一般財団法人LOS相談センター
一般財団法人仏教検定協会
一般財団法人PRAY for(One)
全日本宗教用具協同組合

全日本葬祭業協同組合連合会
岩手県葬祭業協同組合
埼玉葬祭業協同組合
東京都葬祭業協同組合
神奈川県葬祭業協同組合
岐阜県葬祭業協同組合
名古屋葬祭業協同組合
愛知県葬祭業協同組合
京都中央葬祭業協同組合
大阪葬祭業協同組合
徳島県中央葬祭業協同組合
福岡県葬祭業協同組合
長崎県葬祭業協同組合
一般社団法人全日本冠婚葬祭互助協会
一般社団法人日本石材産業協会
一般社団法人遺品整理士認定協会
准秩父観音霊場三十四札所

【個人会員】

稲盛 和夫(京セラ株式会社名誉会長)
社本 公一(公認会計士)
天性寺 俊行(山形県)
福聚院 伊達 廣三(宮城県)
護勢寺 菅原 公宇(宮城県)
慈願寺 池田 行信(栃木県)
東榮寺 大森 篤史(埼玉県)
法瑠寺 矢島 浄純(埼玉県)
建福寺 安野 正樹(埼玉県)
光明寺 石上 善勝(千葉県)
萬福寺 垣内 正道(東京都)
妙定院 小林 英幸(東京都)
慈眼寺 櫻井 雅彦(東京都)
浄心寺 佐藤 輝成(東京都)
信松院 西村 琢堂(東京都)
玉林禅寺 長谷 信善(東京都)
慶安寺 堀井 隆川(東京都)
真照寺 板坂 光明(神奈川県)
廣徳寺 佐藤 直道(神奈川県)
大蔵寺 眞田 有快(神奈川県)
金蔵院 眞田 良光(神奈川県)
龍泉寺 西山 良光(神奈川県)
圓滿寺 西郊 良光(神奈川県)

正泉寺 野澤 隆幸(神奈川県)
重連寺 関崎 幸孝(新潟県)
玄向寺 荻須 眞教(長野県)
本光寺 木村 光正(静岡県)
寂光院 松平 實胤(愛知県)
光泉寺 松山 公顯(愛知県)
太福寺 佐久間大道(兵庫県)
善隆寺 杉浦 栄俊(兵庫県)
吉祥院 曾我 龍慶(兵庫県)
精明寺 正田 哲壽(鳥取県)
龍仙寺 武田 昭英(広島県)
誓光寺 村上 智真(山口県)
西光寺 高橋 篤法(大分県)
渡邊 永(宮城県)
川村 進(千葉県)
鈴木 朝雄(千葉県)
小川 昌美(東京都)
小林 昇(東京都)
鳥居 邦夫(東京都)
松村 朱実(東京都)
天久保 貴(神奈川県)
君和田茂男(神奈川県)
佐藤 泰之(神奈川県)
中村美津江(神奈川県)
東田 樹治(神奈川県)
松田 健(神奈川県)
田中 悠樹(長野県)
山崎 忠征(愛知県)
安田 容造(京都府)
村橋 吉重(大阪府)
平野 泰寛(和歌山県)
井上美和子(佐賀県)
塩月 光夫(宮崎県)
岩屋 毅(自由民主党衆議院議員)
大塚 高司(自由民主党衆議院議員)
金子 恭之(自由民主党衆議院議員)
上川 陽子(自由民主党衆議院議員)
河村 建夫(自由民主党衆議院議員)
小島 敏文(自由民主党衆議院議員)
佐藤ゆかり(自由民主党衆議院議員)
関 芳弘(自由民主党衆議院議員)
高市 早苗(自由民主党衆議院議員)

野田 毅(自由民主党衆議院議員)
平沢 勝栄(自由民主党衆議院議員)
牧島かれん(自由民主党衆議院議員)
松本 剛明(自由民主党衆議院議員)
松本 文明(自由民主党衆議院議員)
三原 朝彦(自由民主党衆議院議員)
片山さつき(自由民主党衆議院議員)
武見 敬三(自由民主党衆議院議員)
中川 雅治(自由民主党衆議院議員)
二之湯 智(自由民主党衆議院議員)
早坂 義弘(自由民主党衆議院議員)
大塚 耕平(自由民主党衆議院議員)
大野 元裕(自由民主党衆議院議員)
斎藤 嘉隆(自由民主党衆議院議員)
白 眞勲(自由民主党衆議院議員)
赤松 広隆(自由民主党衆議院議員)
荒井 聰(自由民主党衆議院議員)
枝野 幸男(自由民主党衆議院議員)
福山 哲郎(自由民主党衆議院議員)
大串 博志(自由民主党衆議院議員)
前原 誠司(自由民主党衆議院議員)
中山 恭子(自由民主党衆議院議員)
原口 一博(自由民主党衆議院議員)
浅尾慶一郎(自由民主党衆議院議員)
楠田 大蔵(自由民主党衆議院議員)
高村 正彦(自由民主党衆議院議員)
今野 智博(自由民主党衆議院議員)
高木 義明(自由民主党衆議院議員)
田島 一成(自由民主党衆議院議員)
保利 耕輔(自由民主党衆議院議員)
松本 謙公(自由民主党衆議院議員)
岩城 光英(自由民主党衆議院議員)
佐藤 公治(自由民主党衆議院議員)
佐藤 泰介(自由民主党衆議院議員)
自見庄三郎(自由民主党衆議院議員)
鈴木 寛(自由民主党衆議院議員)
鈴木 政二(自由民主党衆議院議員)
田名部匡省(自由民主党衆議院議員)
谷川 秀善(自由民主党衆議院議員)
林 久美子(自由民主党衆議院議員)
藤谷 光信(自由民主党衆議院議員)
前田 武志(自由民主党衆議院議員)



新年お慶び申し上げます

第三十二期役員

会長 小峰 一允
副会長 中西 玄禮
 田仲 日紘
 多川 俊映
 工藤 裕雅
 篠原 法傳
 八木 季生
評議員 横井 真之
 松原 功人
 柴田 達也
 宮林 雄彦
 小林 順光
 鈴木 英全
 栗原 正雄
 杜多 道雄
 小寺 秀仁
 坂井 智宏
理事長 石上 智康
理事 久喜 和裕
 齋藤 明聖
 戸松 義晴
 塩崎 望巳
 添田 隆昭
 上沼 雅龍
 杜多 徳雄
 深澤 照生
 小島 一雄
 吉田 明良
 岡野 正純
 桶屋 良祐
 守山 雄順
 新美 昌道

監事 都築 哲二
 木村 盛雄
 伊藤 正導
 井桁 雄弘
 一月 正人
 杉山 令憲
 古澤 勝浩
 山中 一郎
顧問弁護士 長谷川正浩
総務財政審議会 山本 雅彦
 東森 尚人
 下野 真人
 谷上 昌賢
 中川 法政
 岡部 観栄
 上沼 雅龍
 寺本 亮洞
 久保田剛士
 岩脇 彰信
 木村 匡成
 生田 忠士
社会・人権審議会 山崎 孝裕
 宇野 哲哉
 寺田 正寛
 幸島 正導
 三原 正資
 佐々木基文
 森 昌寛
 林 光俊
 笹沼 弘憲
 阿部 秀全
 株橋 隆真
 篠田 節子
 小池 達子

国際交流審議会 古溪 理哉
 野崎 慶至
 藤田 哲史
 杉山 俊明
 佐々木康文
 丹羽 義寛
 松山 大耕
 奥山 元照
 小鷹 正人
 渡会 瑞顕
 久野 晃秀
 日比野郁皓
 村山 博雅
宗教教育推進委員会 小林 千秋
 白川 了信
 木全 和博
 新谷 仁海
 中井 本秀
 橋本 真人
 細川 晋輔
 森田 源真
 高麗 行真
 三方 優輝
 富田 道生
 菅原 節生
 佐藤 元紀
広報委員会 関根 隆紀
 辻本 祐子
 梯 宗
 浅野 義光
 小泉 顕應
 山口 文章
 松原 信樹
 福井 邦彦
 杉本 栄次
 中野 恭英

吉水 智栄
 新倉 典生
 金子 嘉広
 小川 淳詩
WFB 日本センター
運営委員会 小林 正道
 戸松 義晴
 日比野郁皓
 壽山 良光
 村山 博雅
 東海林良昌
 酒井 仁成
支援検討会議 新倉 典生
 岩田 智充
 末廣 久美
 東海林良昌
 茅野 俊幸
 藤森 雄介
 長谷川正浩
宗派代議員 喚阿 安道
 五條 永教
 村上 法照
 守山 雄順
 吉田 明良
 吉田 貞男
 草野 良徳
 丸山 良徳
 神谷 敬信
 瀬川 大秀
 壁瀬 宥雅
 小池 陽人
 今井 章圓
 岡田 康秀
 野澤 密孝
 吉村 増亮
 久我 儼昭
 加藤 良邦

櫻井 随峰
 藤森 邦夫
 八木 浄顯
 桑原 弘善
 濱田 全眞
 齊藤 宗徹
 村田 靖哲
 山木 雅晶
 盛井 幸道
 三吉 廣明
 今井 満良
 秋葉 敬真
 荻田 清文
 橋村 公英
 松村 隆誉
 岡本 元興
都道府県仏教会・仏教団体代議員 工藤 裕雅
 玉木 芳宗
 鈴木 堯將
 平澤 照隆
 若槻 繁隆
 木村 盛雄
 新倉 典生
 井澤 孝一
 和田 博祐
 萩須 眞教
 横山 善道
 石川 浩徳
 舎人 経昭
 前阪 良憲
 長澤 香静
 栗原 正雄
 藪木 恵照
 清水谷善圭
 本山 瑞峰
 岡部 義典
 乃村 龍決
 叶 宜朗

平兮 宗賢
 一月 正人
 正岡 文郁
 末廣 久美
 生田 忠士
 高山 久照
 佐藤 雅彦
 麻布 真海
 東海林良昌
 長谷川岱潤
 西郊 良光
 上村 隆利
財団創立六十周年記念事業実行委員会
実行委員長 石上 智康
実行副委員長 久喜 和裕
 齋藤 明聖
 戸松 義晴
 塩崎 望巳
 添田 隆昭
 上沼 雅龍
 杜多 徳雄
 深澤 照生
 小島 一雄
 吉田 明良
 岡野 正純
 桶屋 良祐
 守山 雄順
 新美 昌道
 都築 哲二
 木村 盛雄
 伊藤 正導
 井桁 雄弘
 一月 正人

勸募部会 寺本 亮洞
 金子 史朗
 川島 俊之
 細田 昌弘
 岩脇 彰信
 伊勢 俊雄
 菅 智潤
 菅原 啓隆
 小池 陽人
 野澤 密孝
 杉山 俊明
 高谷 哲朗
 畔柳 正倫
 吉水 光章
 野生司祐宏
 梯 宗
 久世 宜範
 中江 慈光
 細川 晋輔
 榎 承昭
 山木 雅晶
 渡邊 雪雄
 加藤 憲七
 風間 随修
 秋葉 敬真
 小野山淳鷺
 鷺尾 隆元
 笹尾 正道
 木村 盛雄
 新倉 典生
 佐藤 功岳
 岩木 涼山
 前阪 良憲
 荒木 元悦
 島崎 義範
 加藤 定厚
 西溪 光照
 正田 哲寿
 本山 瑞峰

岡部 義典
 乃村 龍決
 伊東 聖隆
 一月 正人
 弘中 康之
 末廣 久美
 古澤 勝浩
 高山 久照
 根岸 榮宏
 中山 秀成
 西郊 良光
 宮川 宏生
全日本仏教徒会議・記念式典部会 星野 周徹
 三吉 廣明
 牧野 秀成
 秋田 堯慶
 上田 浩久
 伊東 寂俊
 鈴木 堯將
 井上 広法
 新倉 典生
 和田 博祐
 姉川 慈航
 萩須 眞教
 石川 浩徳
 東海林良昌
 金子 嘉広
 奈良 慈徹
WFB・WFBY 日本大会部会 戸松 義晴
 樋上 孝教
 佐藤 雅彦
 木内 隆志
 壽山 良光
 入西 智彦
 村山 博雅

小林 正道
 日比野郁皓
 東海林良昌
 藤田 宗玄
 酒井 仁成
記念誌編集部 福田 芳修
 三吉 廣明
 高山 久照
 岩田 智充
 上村 隆利
 池田 行信
 山本 観晃
 入西 智彦
 加久保範祐
事務総局 久喜 和裕
総務部 和多 善秀
財務部 山崎美由紀
社会・人権部 和田 学英
 矢萩 祥恵
 高佐 宣長
 坂本 太樹
広報文化部 中村 甲
 下島 章裕
 山崎 亮秀
国際部 堀池 友絢
 齊藤 哲圓
関西支局長 伊藤 睦雄
 支局員一同

12月20日現在 (敬称略・順不同)



花まつり



ポスター・絵はがき 頒布開始

一般公募の作品がポスターと絵はがきになりました!!

全日本仏教会では「花まつり」の社会宣揚を推進すべく花まつりポスター・絵はがきを頒布しています。

今回、「花まつり」をテーマにデザイン的一般公募を実施し、大賞に選ばれた作品を使用したポスターと絵はがきを作成いたしました。惜しくも大賞は逃したものの、ぜひ皆さまにご覧いただきたい作品も絵はがきとして使用しています。

地域や寺院で開催される「花まつり」や春のイベント告知に、新春のご挨拶や感謝の気持ちを伝えるツールとしてご利用いただくと幸いです。少数でもお気軽にご注文ください。

ポスター大賞作品



「花まつり」



「お釈迦さま」

ポスター

1枚：50円

(※別途、送料が必要です)

サイズ：A2

(縦59.4cm×横42cm)

絵はがき大賞作品



「微笑みの華」

絵はがき採用作品



「花笑満々」

絵はがき

2枚1組：無料

(※別途、送料が必要です)

皆様の花まつり・春のイベントを紹介します！

本会webサイトでは全国の「花まつり」や春のイベントを紹介したく、開催情報をお待ちしております。1人でも多くの方に「花まつり」を知っていただき、お釈迦さまのご誕生を皆さんでお祝いいたしましょう。

【お申し込み・お問い合わせ】

広報文化部 TEL：03-3437-9275 FAX：03-3437-3260
E-mail：a-shimojima@jbf.ne.jp

※申込用紙は本会webサイトよりダウンロードいただけます。(http://jbf.ne.jp/)



2018年1月1日発行
1月号 第636号



発行人 久喜 和裕
発行所 公益財団法人 全日本仏教会
〒105-0011 東京都港区芝公園4-7-4 明照会館2階 TEL 03(3437)9275 FAX 03(3437)3260
印刷所 ティケイ ハンドル アート